



令和2年度 定時総会開催



第27号

令和2年8月20日

発行 (公社)笠間市シルバー人材センター
 編集 総務部会
 住所 笠間市石井717番地
 電話番号 0296-73-0373

令和2年度運営状況報告 (4月~7月)

会員数・就業状況

	男性	女性	合計
会員数	219名	97名	316名
就業実人員	149名	76名	225名
就業率	68.0%	78.4%	71.2%

事業実績

公共受注額	16,548,807円
民間等受注額	39,232,373円
受注額合計	55,781,180円
受注件数	1,237件

なかま



友部地区
横倉 武文



定年退職後、少しばかりの畑で季節の野菜作りなどで暇をつぶしていました。黙々と作業し、作物を育てるのは好きでそれなりに楽しいのですが、社会との接点が少なく物足りなさも感じていました。月並みですが健康で働ける間は少しでも社会にも貢献しようとしてシルバー人材センターに入会しました。特技などありませんでしたので、「草刈り作業」なら刈払機は所有しているの、畑作業の延長でできるだろうと安易な考えで希望いたしました。四月から本格的に仕事が始まり、作業場の環境は多様であり、効率よく確実に仕事を遂行するために、随所で創意工夫がされており、日々「目からウロコ」の連続です。

今はまだ与えられた仕事を何とかこなすことに汲々としておりますが、総会の資料にもありました魅力ある会員像である「勤勉さ」「穏やかさ」「正確さ」を体得できるようにになりたいと思います。ご指導よろしくお願いたします。



友部地区
松岡 幸雄

先輩の紹介により会員登録。四月から大手企業敷地内の草取り作業に従事しております。

ノコギリ鎌を使い工場建物回りの除草、植え込みには体を入れ、ヘクソカズラ(屁糞葛)、ヤブカラシ等の長い茎に力を入れて抜き取る。

しかし、二ヶ月も過ぎると元の繁みに戻っており草の繁殖力には驚くばかり。縦横に根を張る一方で、種子、果実からも子孫を増やし続けている。正に人間と草の根気くらべ。

屁糞葛の花言葉は「人嫌い」名前の通り悪臭を放ち人間を寄せ付けない反面、夏には可憐な赤紫色の小花を咲かせることから、古来歌の材料として詠まれていたようです。また、下痢、黄疸、しもやけに効能ありとされ重宝されてきた事も見逃すことはできません。

予想される真夏の暑さは勿論、蚊・毛虫・ハチにも注意しつつ、三人編成の仲間との交流を深め頑張りたいと思います。

事務局からのお知らせ

令和二年四月から現在までに、傷害・賠償事故共に二件ずつの報告がありました。傷害事故は、草刈作業中に刈払機に指が触れ裂傷した事故と、植木剪定中、三脚からの落下により肘を裂傷した事故です。

また賠償事故に関しては、個人宅の庭を草刈作業中飛び石によりサンルームのガラスを破損してしまつた事故と、草刈後の処分作業で近くに停めてあつた車に枝が触れ車体に傷を付けてしまつたものでした。いずれも、周囲の状況を十分に把握し注意をすれば防げた事故と思われれます。

しかしながら、事故は植木剪定や草刈り作業においてのみ起こるものではありません。全ての作業において、今一度ご自分の作業方法の見直し、確認をお願いします。一人一人の自覚が事故を防ぎます。

また、最近センター事務局を通さず作業をする会員がいるというような情報が寄せられています。万が一事故等が発生した場合は、シルバー総合賠償責任保険等は適用されませんので、受注、作業には十分気を付けてください。

編集後記

中国で蔓延し始めた「新型コロナウイルス」に感染したと思われる乗客を乗せた、豪華客船「ダイヤモンドプリンセス号」が、二月の初め横浜港に接岸しました。この時、日本のみならず全世界に感染が拡大していきなご誰が予想できたでしょうか。三月には学校が臨時休校、四月には全県に「緊急事態宣言」が発令となり、医療・経済・生活等様々な面で深刻な状況に追い込まれました。当然私たちシルバーの仕事にも影響が出ました。不要不急の外出は自粛、「PCR検査」「三密」という言葉も毎日のように報道されました。やっと五月二十五日に全県で緊急事態宣言が解除されましたが、安心できる生活にはなかなか戻れないのが現実です。そんな中でも仕事のやり方を工夫するなどコロナに負けない取り組み等々明るい話題もありました。

私たちも大変な時こそお互いを励まし合つて、楽しく仕事をしていきたいと思つています。

総務部会 岩田孝司

シルバー人材センターの「基本理念」

- 自主……センターを私達のものとして考えます。
- 自立……センターを私達の方で育てます。
- 共働……私達はいつも一緒に働きます。
- 共助……私達は互いに助け合います。

定時総会報告

日時 令和二年六月十八日(木)
 午後一時三十分から午後二時
 会場 笠間市シルバー人材センター会議室
 会員数 三二七名(総会当日現在)
 出席者 一七名 委任状 二二四名
 議長 磯護
 議長 磯護
 議事録署名人 磯護・稲見 栄治

報告事項

- 報告第一号 令和元年度収支補正予算について
- 報告第二号 配分金規約の改正について
- 報告第三号 令和二年度事業計画について
- 報告第四号 令和二年度収支予算について
- 報告第五号 令和元年度事業計画について

決議事項

- 議案第一号 令和元年度収支決算について

監査報告





皆様お元気でお過ごしでしょうか。

会員の皆様には、自然災害や新型コロナウイルスの感染拡大に伴う日常生活の変化など今まで経験しな

かった環境の中で、シルバー人材センターの事業運営にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

シルバー人材センターは、高齢社会の様々な所で重要な役割を果たしており、会員の活動に対して市民の方から、大きな期待が寄せられています。このことを会員一人一人がより深く認識して、培った技術・技能・知識を駆使して地域に貢献していきましよう。

より多くの方々の期待にお応えするためには、今年度の事業計画にも掲げてあります会員の増が必要となります。皆様の知人や友人の中で意欲のある方に入会を勧めたいとお願ひいたします。

また、会員の皆様が働くうえで最も重要なことは、安全に就業することです。目標は事故ゼロとされていますが、毎年事故が起きている状況にあります。会員の皆様が怪我により就業できなくなったり、事故を起こしたことに地域の方々に迷惑をかけてしまうこととなります。

会員の皆様一人一人が事故は絶対に起こさないと強く自覚して就業してください。

仲間と助け合い、お客様・地域の方々に信頼されるよう頑張りましょう。

最後になりますが例年どおり、今年も暑い夏になる模様ですので熱中症などの体調管理に十分気を付けてお過ごしください。よろしくお願いいたします。

現在笠間市シルバー人材センターで受注可能な職種です。一般分野と技能分野の一部においては、職班制を導入し各班長を中心に円滑な就業の推進にご協力いただいております。班をまとめ、発注者との日程調整や下見・見積もりなど多岐にわたりご活躍いただいている班長さんをご紹介します。

受注可能な職種

一般分野

- 草刈・草取り
- 公園清掃
- 薬剤散布
- 屋内外清掃など



技能分野

- 植木剪定
- ペンキ塗り
- 大工仕事
- 襖・障子網戸貼り替えなど



事務分野

- 文書管理事務
- 毛筆筆耕
- 宛名書きなど



サービス分野

- 家事援助
- 遊覧飛行受付
- 観光案内など



管理分野

- 施設管理
- 駐車場管理など



派遣分野

- 区長文書印刷・配送
- 図書移送
- 小型建設機械清掃など



草刈班		草取班		
笠間地区	1班	後藤 弘一	1班	小南ふみ子
	2班	成田 正昭	2班	青木アイ子
	総合公園班	川辺 義重	3班	赤上 とき
友部地区	田邊班	田邊 純	佐久間班	佐久間チカ
	倉持班	倉持 啓輔	松田班	松田 和子
	国井班	国井 健一		
岩間地区	南指原班	南指原 正	田口班	田口二三子
	中里班	中里 稔	柴山班	柴山さち子
植木剪定班		襖・障子・網戸班		
笠間地区	1班	田口 賢三	笠間地区	塩畑 守一
	2班	菊田要一郎	友部地区	高柳 栄次
	3班	海藤 好三		
友部地区	飯島班	飯島 敏隆		
	稲見班	稲見 栄治		
	川崎班	川崎 譲		
岩間地区	八田班	八田 良夫		
	飯田班	飯田 茂		

「一人一会員入会」

全職種において、仕事を受けられる会員が減少しています。一人の会員が、ご友人や知り合いの方一人を誘い入会していただくことで仕事の中が広がります。

身近な方へのお声かけをおねがいます。

永年表彰

シルバー人材センターの表彰規程により15年以上在籍し、年齢が75歳以上でおおむね3年以上の就業経験があり、センターの事業発展に寄与し、会員としての業績が顕著であった方を表彰しております。

本年度は、笠間地区の三名の方々に、賞状と記念品を授与致しました。

加藤 善治様
清水 靖子様
和田 孝様



磯理事長 加藤様 清水様 和田様 (写真左から)

十五年の表彰を授与されて

加藤 善治

思えば平成十六年の秋にシルバーの会員になりましたので、いつの間にか十五年が経ちました。この度その表彰を受け、喜びとともに傘寿を過ぎた今日まで、よくぞ元気に続けられたものだと思いを感じています。今更ながら我が身の健康に感謝です。入会当初は現役後の、いわば余剰人生に働きたいと考えていましたが、障子・襖班での仕事を通してお客様と接しているうち、次第にその考えの甘さを感じるようになりました。胸を張って納品するには、それ相応の「プロ」たる厳しさを持たねば許されないことを実感するのです。しかし、その反面納品した時にいただけるお客様の嬉しそうな笑顔。その喜びは金銭に替えられるものではありません。誰でも、どんな仕事でも、共通して云える、極く当たり前の事と笑われそうですが、そこには自分が好きで選んだ仕事に立ち向かう楽しさ、わくわく感が有ることもまた事実で、共感いただけるものと思います。

同じ仲間達に支えられ、共に味わうその様な喜怒哀楽が、この十五年間自分には思いもよらなかつた程の元気の源となっていたのかもしれない。最近では、足腰の痛みやらで体力の衰えを感じており、どこまで続けられるかと云った段階にきていますが、「人生百年時代」にあやかっつて、体を甘やかさず、無理もせず、元気で、楽しく、そして最後は「ピンピンコロリ」と逝く。このようなことを目標として日々を過ごして参ります。ありがとうございました。